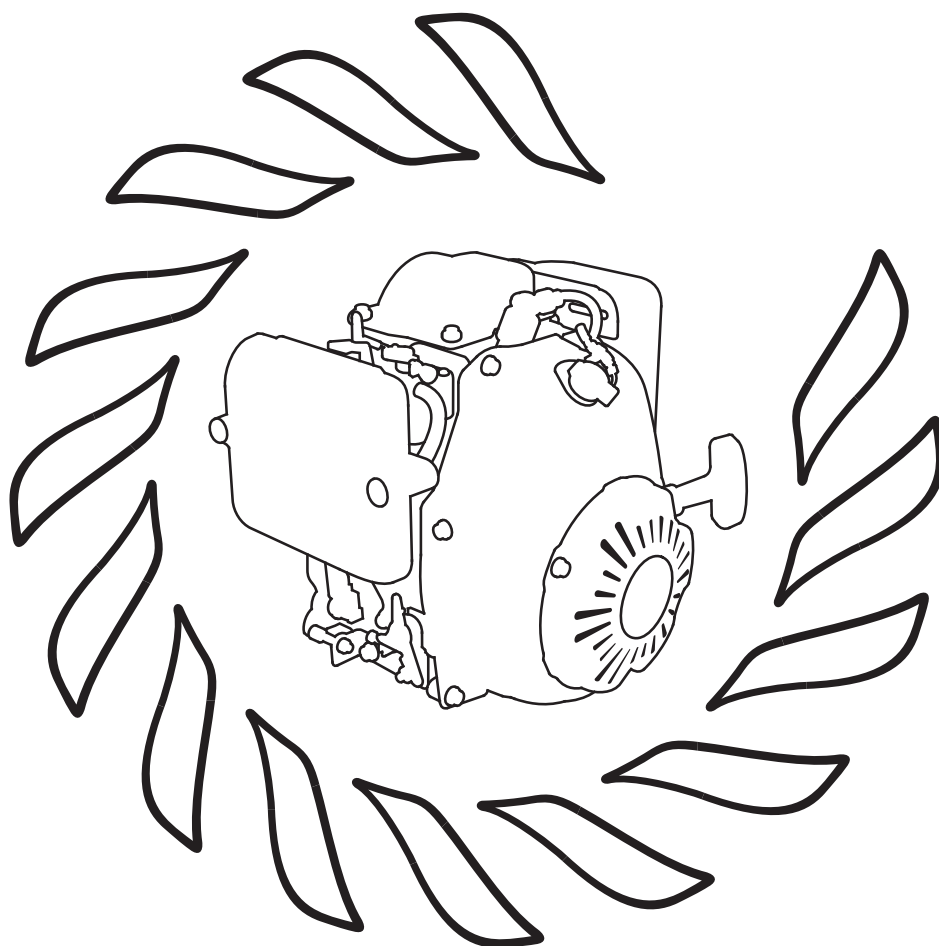


HONDA

エンジン

GX100

取扱説明書



お買いあげありがとうございます。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

はじめに

- この取扱説明書は、お買いあげいただいたエンジンの正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みください。

安全に関する表示について

本書では、作業や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

- エンジンを操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
- エンジンを貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお願いします。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはサービス指定店にご注文ください。

- この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。



本製品は、（一社）日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合しています。

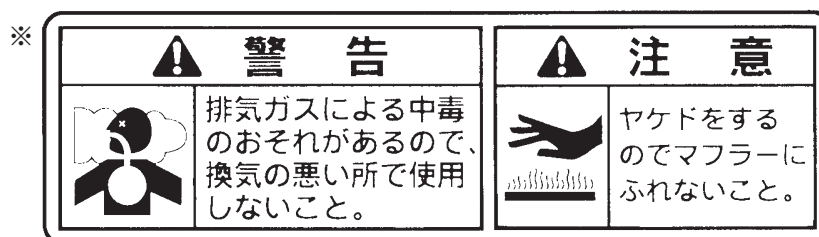
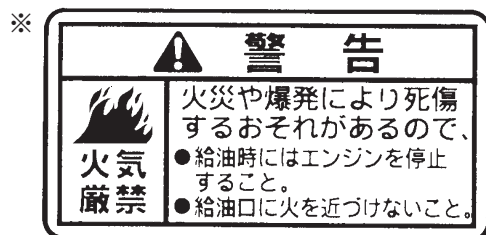
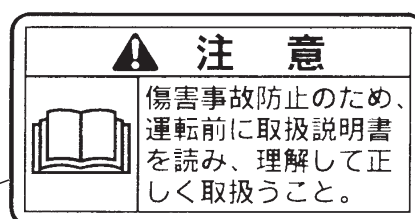
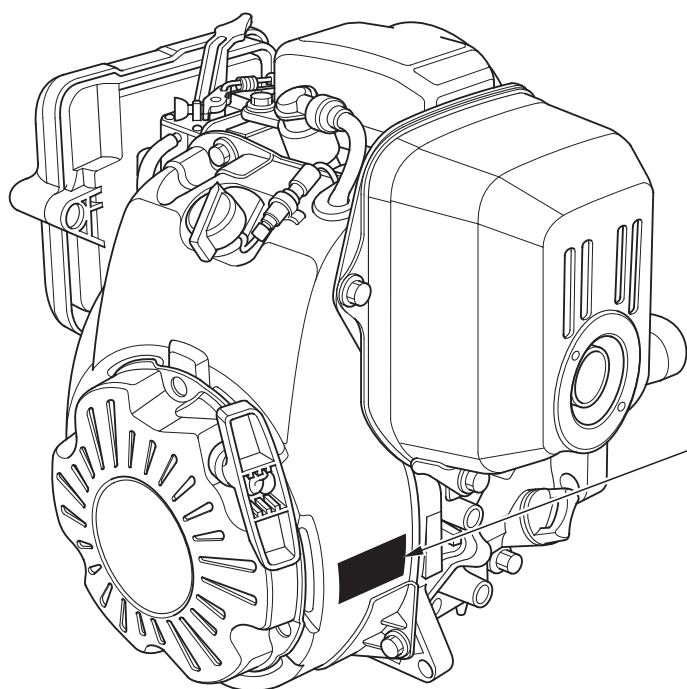
● 安全ラベル

Honda エンジンをお安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。

安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。

ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店またはサービス指定店へお問い合わせください。

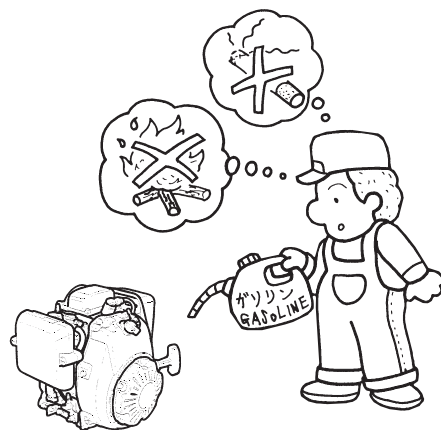


※ これらの安全ラベルは実機に合わせ適切な位置に貼られています。

警告

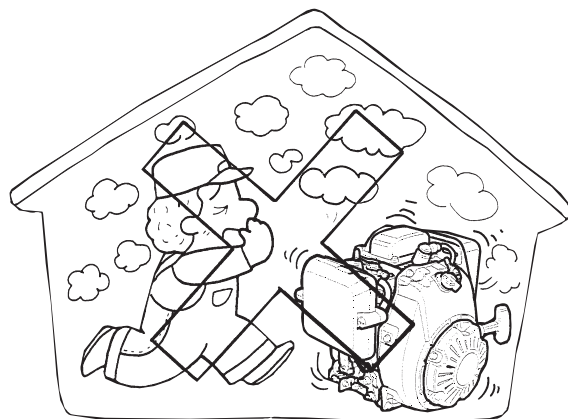
あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

- エンジン単体でエンジンを始動しないでください。このエンジンは作業機に搭載した状態で使用できるように作られています。
- エンジンを作業機などに搭載する場合は、安全性、耐久性を確保するために高度な技術が必要です。搭載する際は、お買いあげいただいた販売店またはサービス指定店にご相談ください。
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。また、作業機の取扱説明書も事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解ください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンを始動する前に点検しましょう」(5～6頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機の運転操作をさせないでください。また、子供には絶対にさせないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外してエンジンを操作しないでください。また弊社がみとめない改造または使用はしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用してエンジンを使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- エンジンの日常点検、整備を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理してからご使用ください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、所定のレベルを超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。



警告

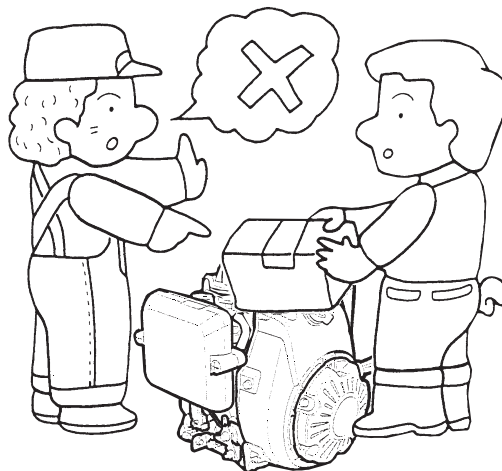
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などの換気の悪い所では使用しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には有害な成分が含まれています。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 建物や遮へい物などで風通しの悪い場所、また排気ガスがこもる場所などでも有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがありますので使用しないでください。



- エンジンの周りには、わらくず、紙くず、木くずなどの燃えやすいものや、油脂類、石油製品、火薬などの危険物を近づけないでください。火災や爆発の危険があります。



- 運転中はもちろん、使用しないときも、エンジンの上部に物を置かないでください。変形したり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 運転中や停止直後はエンジン本体やマフラーなどに触れないでください。
熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 運転中は高電圧コードや点火プラグキャップに触れないでください。感電のおそれがあります。



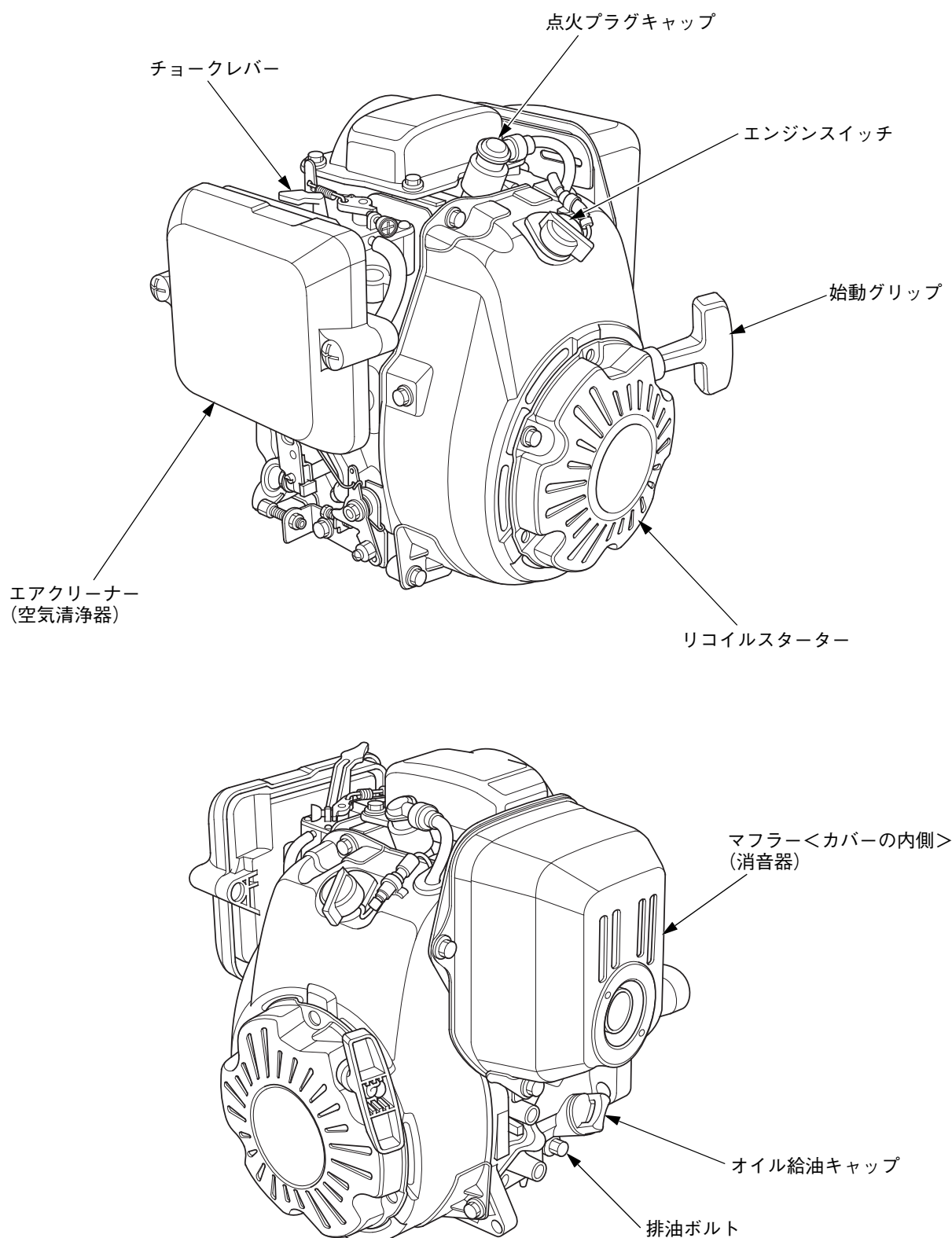
エンジンを始動する前に点検しましょう

⚠ 警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

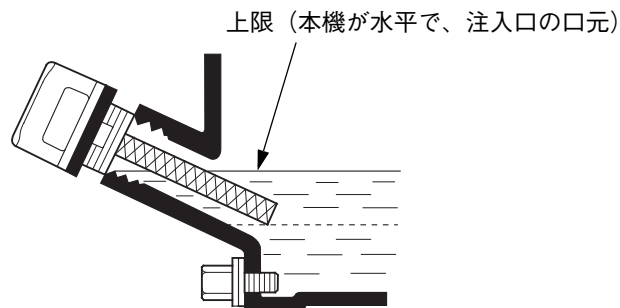
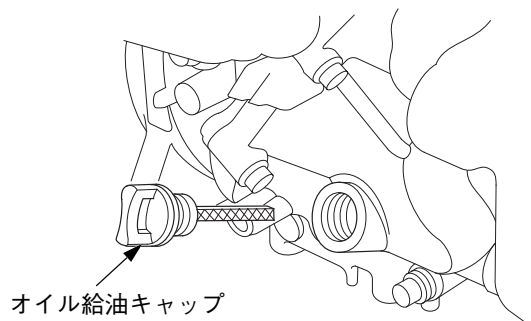
各部の名称と点検箇所



エンジンオイルの点検

《点検》

本機（ランマー）を水平な所に置いてオイル給油キャップを外し、上限までオイルがあることを確認してください。



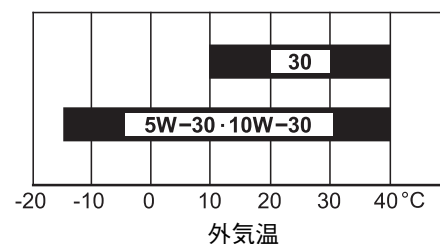
《補給》

- ・ 不足している場合は、新しいオイルを上限まで補給してください。
- ・ 汚れや変色が著しい場合はオイルを交換してください。（交換方法は 11 頁参照）

《推奨オイル》

Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE10W-30）
または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

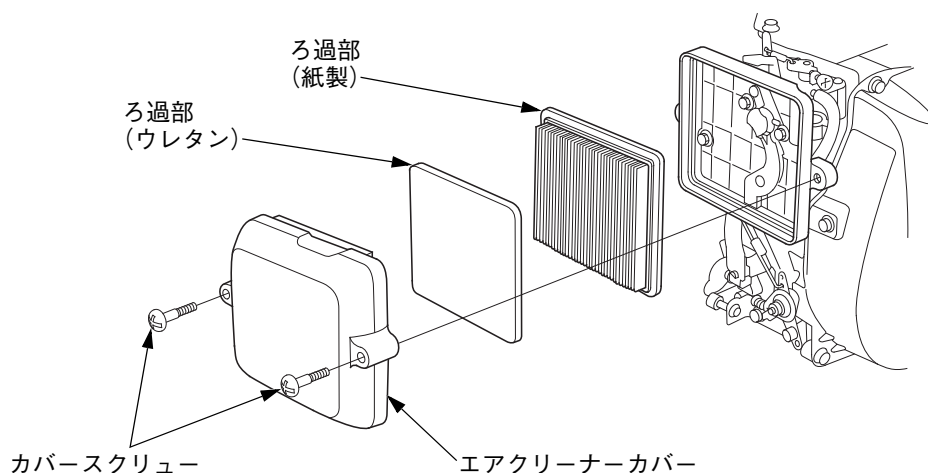


取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリナー（空気清浄器）の点検

- ・ エアクリナーカバーを外し、ろ過部（ウレタン・紙製）が汚れていないことを確認します。
- ・ エアクリナーカバーの取外しは、2 本のカバースクリューを外して行います。
- ・ 汚れがひどい場合はろ過部の清掃または交換を行ってください。（清掃方法は 10 頁参照）
- ・ 汚れているとエンジン性能が低下します。



エンジンのかけかた

⚠ 警告

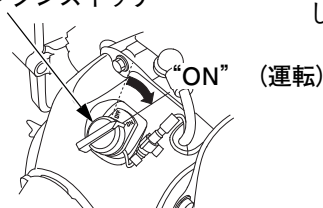
排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。
一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

かけかた

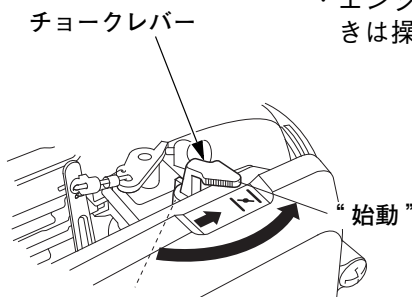
- [1] ランマー本機側の取扱説明書に従い燃料コックを開きます。



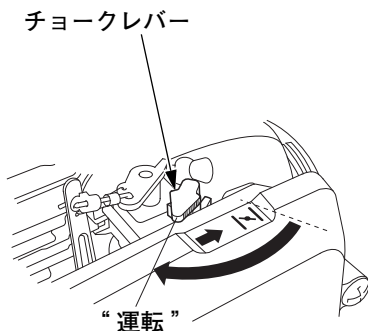
- [2] **エンジンスイッチ** ・エンジンスイッチをエンジンスイッチ “ON” (運転) の位置にします。



- [4] **チョーク** ・寒いときやエンジンがかかりにくいときにはチョークレバーを “始動” の位置にあわせます。
・エンジンが暖まっているときは操作不要です。

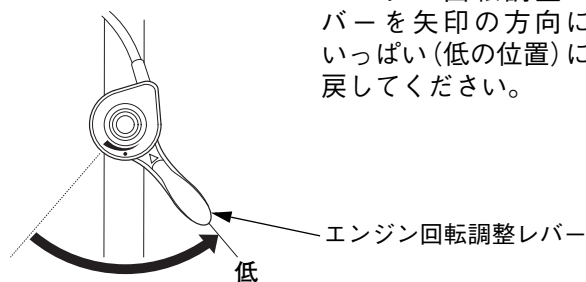


- [6] **チョーク** ・チョークレバーを “始動” にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に “運転” の方向に戻します。

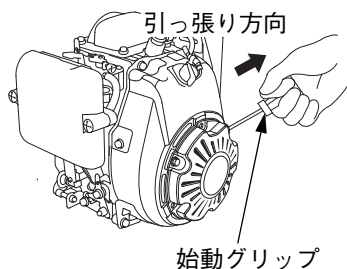


- [7] **暖機運転** ・2 ～ 3 分間暖機運転を行ってください。

- [3] **エンジン回転調整レバー** (ランマー本機側)
・エンジン回転調整レバーを矢印の方向にいっぱい(低の位置)に戻してください。



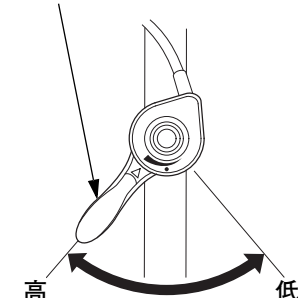
- [5] **始動グリップ** **始動**
・作業機側の安全な部分をしっかりと押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



取扱いのポイント

- ・始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- ・始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- ・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

- [8] **エンジン回転調整レバー** (ランマー本機側)
・エンジン回転調整レバーを使用する回転数に調整してください。



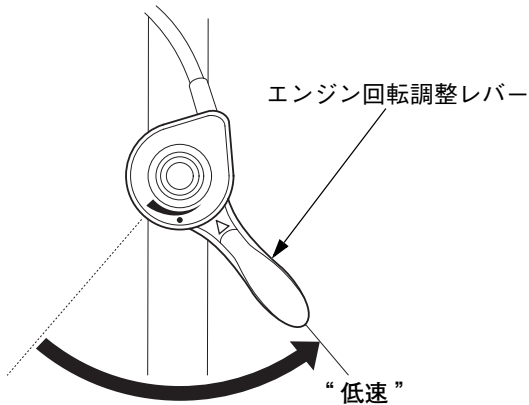
エンジンのとめかた

とめかた

[1]

エンジン回転調整レバー

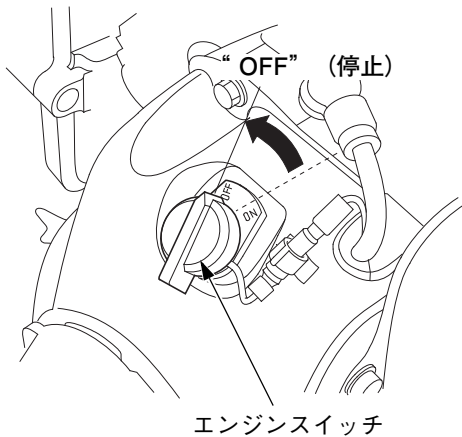
・エンジン回転調整レバーを“低速”の位置(矢印の方向)に戻します。



[2]

エンジンスイッチ

・エンジンスイッチを“OFF”（停止）の位置に回します。



[3]

ランマー本機側の取扱説明書に従い燃料コックを閉めます。

定期点検を行いましょ

お買いあげいただきました Honda エンジンをつつまでも安全で快適にお使いただくために定期点検を行いましょ。

定期点検表

点検項目	点検時期 (1)	作業前点検	1 ヲ月目 または 初回 20 時間 運転目	3 ヲ月毎 または 50 時間 運転毎	6 ヲ月毎 または 100 時間 運転毎	1 年毎 または 300 時間 運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検	○					6
	交換		○		○		11
エアクリーナー	点検	○					6
	清掃			○ (2)			10
	交換					○	
点火プラグ	点検－調整				○		12
	交換					○	
タイミングベルト	点検	300 時間運転毎 (3) (5)					－
スパークアレスター (装備車のみ)	清掃				○		－
アイドリング回転数	点検－調整					○ (3)	－
吸入、排気弁のすき間	点検－調整					○ (3)	－
燃焼室	清掃	300 時間運転毎 (3) (4)					－
燃料タンクおよび 燃料フィルター (6)	清掃				○ (3)		－
燃料チューブ (6)	点検	2 年毎 (必要なら交換) (3)					－

- (1) 点検時期は表示の期間毎または時間運転毎のどちらか早い方で実施してください。
- (2) ホコリの多い場所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は 10 時間運転毎または 1 日 1 回行ってください。
- (3) これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス指定店へお申しつけください。
- (4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。
- (5) ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。
- (6) ランマー仕様等で標準装備されていない場合がありますが、6 ヲ月毎または 100 時間運転毎の清掃を推奨します。

警告

- ・点検・整備は底板の土等を取り除き水平な場所にランマー本機を立てた状態で行ってください。
- ・必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグを取外して行ってください。
- ・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。
- ・一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

点検・整備のしかた

エアクリナー（空気清浄器）の清掃・交換

エアクリナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃、交換をしましょう。

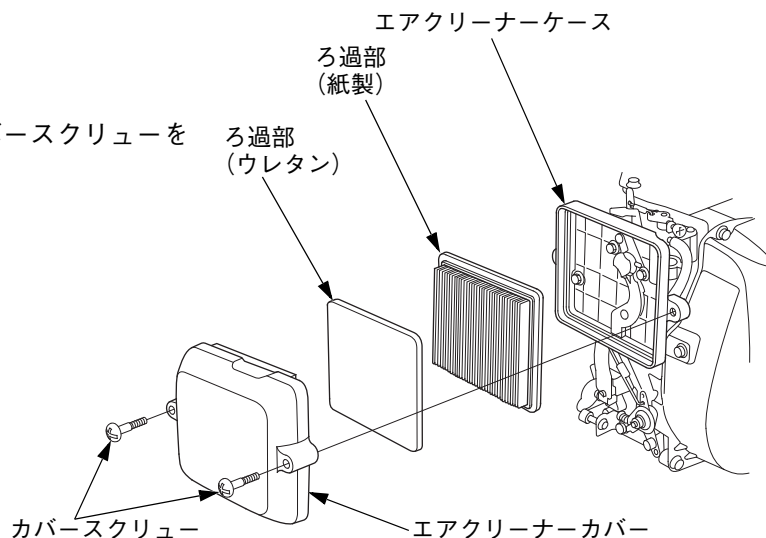
⚠ 警告

- ・ 洗剤油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- ・ 清掃は換気の良い場所で行ってください。

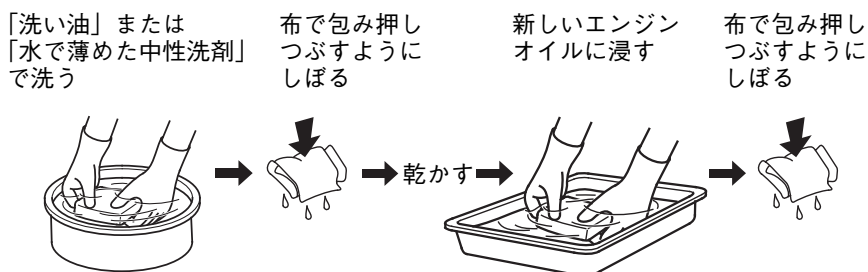
《清掃》

1. エアクリナーカバーを外します。
エアクリナーカバーの取外しは、2 本のカバースクリューを外して行います。

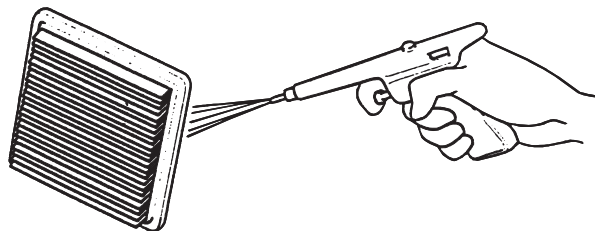
2. ろ過部（ウレタン・紙製）を取外します。



3. ろ過部（ウレタン）を清掃します。



4. ろ過部（紙製）を清掃します。
内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。ブラシなどで汚れを落さないでください。ろ過部が破れたり、汚れが紙の繊維の中に入り込むおそれがあります。
汚れがひどい場合は交換してください。



5. エアクリナーケースに付着したホコリを取除いてください。

6. ろ過部（ウレタン・紙製）、エアクリナーカバーを取外しと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

- ・ エアクリナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。
- ・ ろ過部（ウレタン）にオイルをつけすぎないように注意してください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠ 注意

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《推奨オイル》

Honda 純正ウルトラ U 汎用 (SAE10W-30)

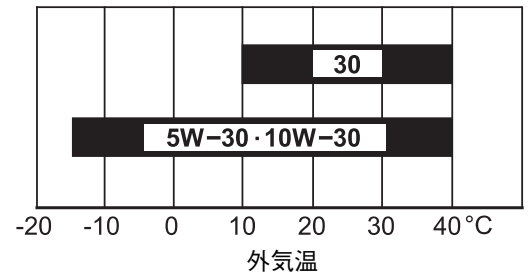
または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

《規定量》

交換時：0.28 L (ランマー搭載角度 15° 時)

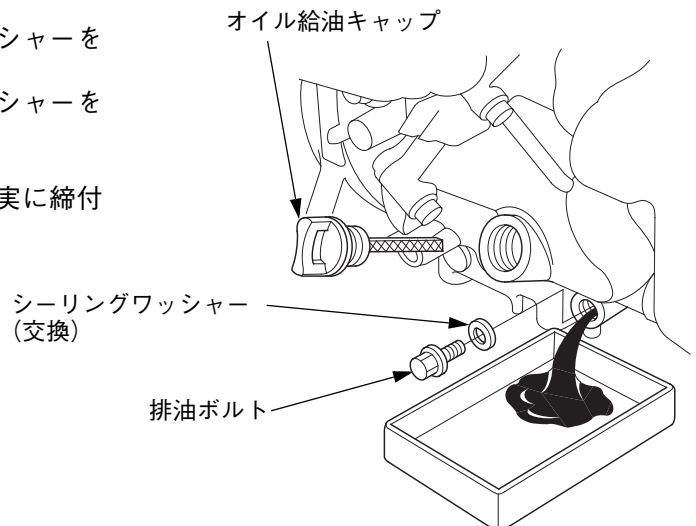
* オイル量は本機の設定傾斜角度により異なります。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《交換方法》

1. オイル給油キャップ、排油ボルト、シーリングワッシャーを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
3. 上限まで新しいオイルを注入します。(6 頁参照)
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



取扱いのポイント

- ・ 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- ・ オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- ・ オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れていたり、火花すき間が不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠ 注意

エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《清掃》

1. 点火プラグキャップを外します。
2. 点火プラグの取付け部周辺をエアブローし汚れを除去します。
3. プラグレンチとプラグレンチハンドルで点火プラグを取外します。
※ プラグレンチまたはプラグレンチハンドルは、タイプによっては同梱されていません。
4. 汚れている場合はワイヤーブラシ等で側方電極部を清掃してください。
※ ワイヤーブラシは別売りです。

《点検・調整》

火花すき間を確認し、側方電極を曲げて、火花すき間を下記寸法に調整します。

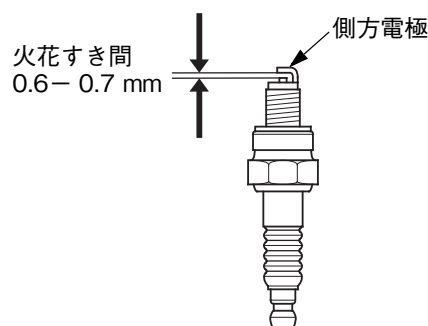
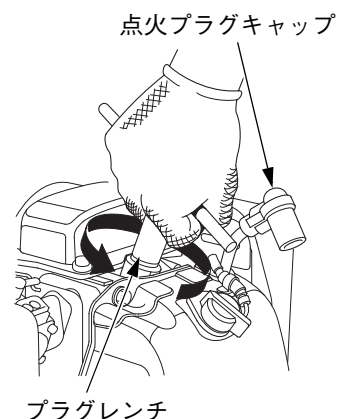
火花すき間：0.6－0.7 mm

取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチとプラグレンチハンドルで確実に締付けます。点火プラグキャップを確実に取付けます。

《指定プラグ》

CR5HSB (NGK)

U16FSR-UB (DENSO)



取扱いのポイント

故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。

点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

故障のときは

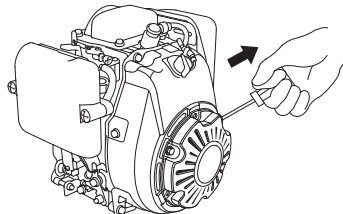
まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないで買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

エンジンがかからないとき

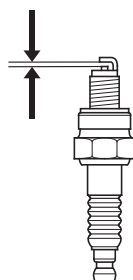
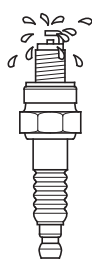
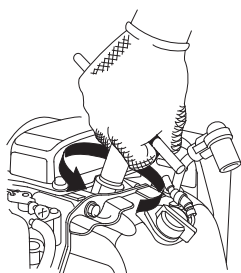
- (1) エンジンスイッチが ON になっていますか？
- (2) 燃料コックが ON になっていますか？
(ランマー本機側の取扱説明書を参照してください。)
- (3) 燃料は十分に入っていますか？
入っていない場合は補給してください。
(ランマー本機側の取扱説明書を参照してください。)
- (4) フューエルフィルターに汚れ、詰まりはありませんか？
(ランマー本機側の取扱説明書を参照してください。)



- (5) 圧縮圧力は十分ですか？
・ 始動グリップをいきおいよく引いて、異常に軽い場合は、圧縮が漏れている可能性があります。

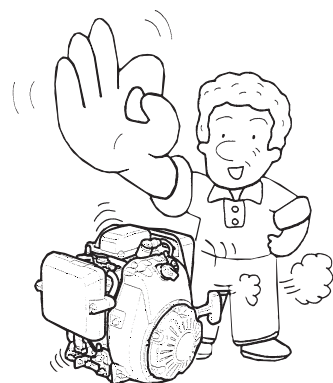


- (6) 点火プラグがぬれたり、汚れたりしていませんか？
- (7) 点火プラグの火花すき間は正しいですか？
・ 火花すき間は 0.6–0.7 mm です。



- ・ ぬれているときや汚れているときは清掃するか新しい点火プラグと交換してください。
- ・ 火花すき間が正しくないときは調整してください。

- (8) 点火プラグを取付けて再度始動してください。



・ お買いあげの販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップを点火プラグから取外します。

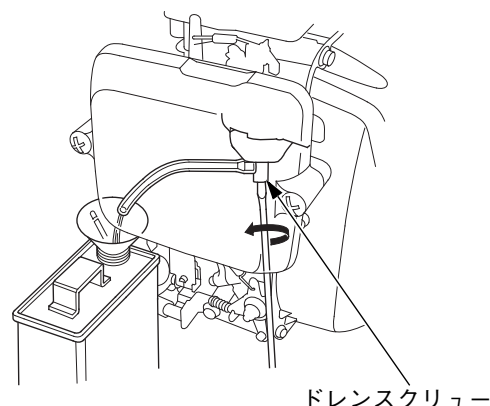
⚠ 警告

- ・ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
 - ・ガソリンを抜くときは
 - ・エンジンを停止してください。
 - ・火気を近づけないでください。
 - ・換気の良い場所で行ってください。
 - ・ガソリンはこぼさないように抜いてください。
- 万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

⚠ 注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラー等は非常に熱くなっています。
ヤケドをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

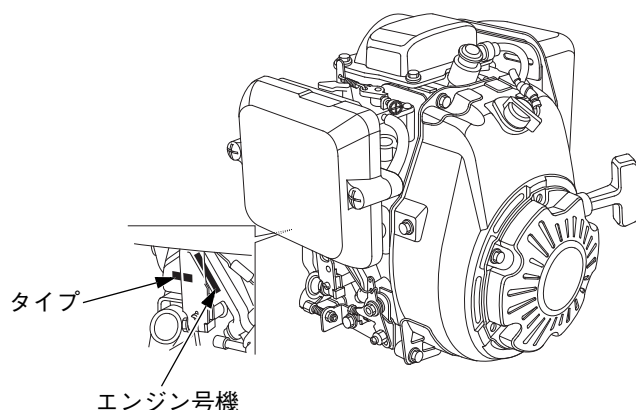
- ・エンジン停止状態で、始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
- ・燃料タンク、キャブレター内のガソリンを抜きます。
 - 1.燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。
(本機側の取扱説明書を参照してください。)
 - 2.ドレンスクリューをゆるめ、燃料タンク、キャブレター内のガソリンを抜きます。
ガソリンは容器に受けてください。
 - 3.ドレンスクリューを締付けます。
- ・エンジンオイルを交換します。(11 頁参照)
- ・エアクリーナーを清掃します。(10 頁参照)
- ・エンジンが十分に冷えてからビニール等でカバーをします。
- ・湿気、ホコリの少ない所に保管してください。



取扱いのポイント

- ・次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- ・オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。
(1年に1回新しいオイルと交換)

タイプ、エンジン号機の表示位置



主要諸元

寸法は KRC2 タイプの数値です。

名 称	GX100T
型 式	GCCBT
全 長	268 mm
全 幅	306 mm
全 高	290 mm
乾 燥 質 量 （ 重 量 ）	11.2 kg
形 式	強制空冷 4 ストローク (OHC)、立型単気筒
総 排 気 量	98.5 cm ³
最大出力／回転速度 (SAE J1349 に準拠＊ 1)	2.1 kW (2.9 PS)/3,600 rpm
最大トルク／回転速度 (SAE J1349 に準拠＊ 1)	5.7 N・m (0.58 kgf・m)/3,600 rpm
連続定格出力／回転速度	1.7 kW (2.3 PS)/3,600 rpm
使 用 燃 料	無鉛レギュラーガソリン
エ ン ジ ン オ イ ル 量	0.28 L ＊ 2（ランマー搭載角度 15° 時）
点 火 方 式	トランジスタ式マグネット点火
始 動 方 式	リコイルスターター

＊ 1：ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 3,600 rpm（最大出力）、3,600 rpm（最大トルク）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

＊ 2：エンジンオイル量はランマー搭載角度により異なります。

※ 諸元は予告なく変更することがあります。

一メ 毛一

一メ 毛一

一メ 毛一

HONDA

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120 - 112010 イイフレアイオ

受付時間 9 : 00 ~ 12 : 00 13 : 00 ~ 17 : 00
〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速
にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、
ご相談ください。

- (1) 製品名、タイプ名
- (2) ご購入年月日
- (3) 販売店名